

# はじめての かんいけんたくほう 簡易懸濁法

金沢医科大学病院  
薬剤部

2016年3月 作成  
2020年7月 更新  
2021年8月 更新  
2023年9月 更新

# 簡易懸濁法って？

錠剤を粉末状にしたり、カプセルを開けたりせずに、そのまま錠剤やカプセルをお湯(約55℃)に入れ、崩壊・懸濁させて経管投与する方法です。

崩壊・懸濁って？

薬が崩れて完全に溶けなくても、水に混ざり合っ、チューブを通る状態の事です



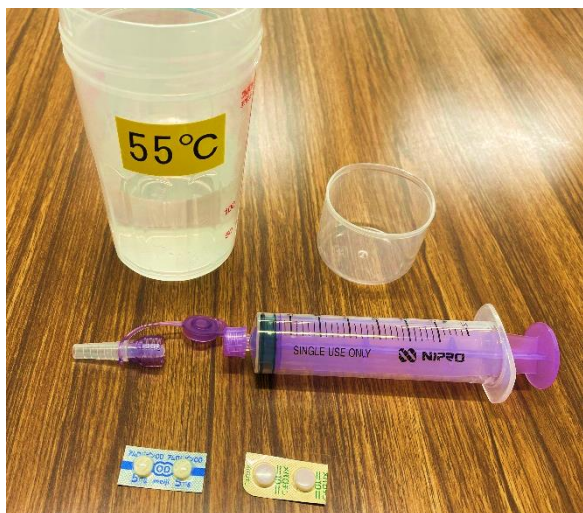
## 簡易懸濁法のメリット

薬を粉末状にする方法に比べて以下のメリットがあります

- 経管チューブの閉塞が避けられる
- 投与前の薬の内容が確認できる
- 薬の効果・安定性が保たれる
- 粉末状にできない薬が使用できる
- 投与する人が粉末を吸う恐れがない

# 準備するもの

- 懸濁容器(紙コップなど)
- 注入器
- 一回分の薬
- 約55°Cのお湯

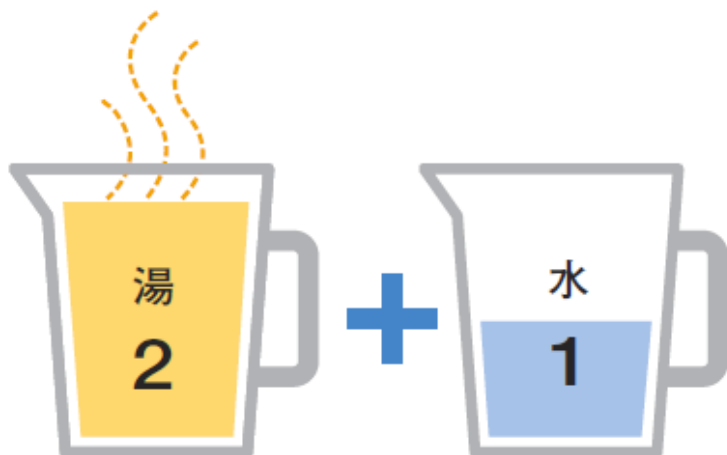


## 【55°Cのお湯の作り方】

※55°Cはカプセルも溶け、薬の効果が保たれる温度です

方法①60°Cに設定したポットのお湯

方法②熱湯：水＝2：1



**熱湯禁止！**

※温度が高すぎると薬の効果が失われる恐れがあります

# 操作手順



手をしっかり洗い、清潔な状態で簡易懸濁を行います！

＜容器を使う場合＞



① 容器に1回分の薬を入れて下さい

※カプセルもそのまま入れて下さい



② 20 mLのお湯を入れ10分間放置して下さい



③ よく振り混ぜて下さい

※しっかり懸濁されているか確認して下さい

④ カップを用いた場合はシリンジに懸濁液を吸って下さい



＜注入器を使う場合＞



先端から温湯を吸ってキャップをつけること！



⑤ チューブに接続し、懸濁液を注入して下さい

※詰まりやすい薬の時は振り混ぜながら注入してください



⑥ 最後に、20～30 mLの水を10秒程かけて注入し、チューブ内に残った薬を完全に注入して下さい



チューブ内に薬が残らないよう  
最後は水でフラッシュ！



- ⑦ 注入器は水洗いし、**しっかり乾燥させて**から再利用してください  
注入器は黒いゴム部分が動きにくくなるまで使用可能です
- ・薬によっては早くゴムが動きにくくなるものがあります
  - ・汚れが目立つ場合は新しい注入器に交換して下さい
  - ・ご不明な点がありましたらご相談ください

## 【錠剤に亀裂を入れて懸濁する指示がある場合】

- 薬に亀裂を入れる必要がある時にはトンカチなど硬い物で上から圧をかけて下さい。また、薬が飛び散らないようにするため、**シートあるいは包装されたまま**行って下さい。



# 注意事項

- 同じ成分の薬でも製薬会社が違うと懸濁できなくなる場合がありますので変更された際はご相談下さい。
- 温湯を入れてから**10分を超えて**放置しないでください。薬の効果に影響することがあります。
- アルカリオン水や外国産のミネラルウォーター(硬水)を使用すると薬の吸収や効果に影響することがありますので**水道水を使用してください**。
- **ご自身の判断で簡易懸濁しないで下さい**。お薬の効果が強くなったり、弱くなったりする場合があります。
- **薬が懸濁しない場合や懸濁後の薬液が薬の色と明らかに異なる色**になってしまう場合等ありましたらご相談ください。

## <連絡先>

金沢医科大学病院 薬剤部

電話:076-286-3511(代表) 内線:35359

住所:〒920-0293 石川県河北郡内灘町大学1-1

